

バリアフリー



ニュース

(創刊号)

3.11 東日本大震災から1年が過ぎました。バリアフリーリーダーの丸山さんから当時の思いを語る、時勢の川柳を送っていただきました。

これからの東北の復興を祈念し、巻頭の言葉といたします。

☆震度七じっと寄り添う盲導犬

☆ありがとう友が差し出す塩むすび

☆復興を後押ししてるボランティア

2011.3.15 に記す

助かった命

丸山あずささん&盲導犬ニコちゃん(6歳女の子)

突然の激しい揺れ。宮城県沖地震が来た！と直感した。立ってられないほどの凄まじい揺れ。不気味な地響き。人々の悲鳴。私は仙台市地下鉄の構内で東日本大震災に遭ったのだった。

幸い目の見える友人と一緒にいたので、二人で抱き合っじゃがみこんだ。盲導犬のニコは二人の間に座った。揺れはかなり長く続き、これでもかこれでもかという感じでなかなか収まらない。まるで振り子時計のように、私たちは右へ左へ揺すられた。私はひたすらニコの身体を抱きしめていた。しばらくして揺れが収まった時、構内にいた人々が一斉に地上へと走る。私たちはその場を動かず、少しして駅の事務室に駆け込んだ。駅員さんも快く私たちを招き入れてくれた。

私は以前「地下鉄の構内は安全だ」と聞いていた。地下鉄は水害による冠水には弱い、地震には強いのだ。耐震性があるので、地下鉄構内が一番安全のはず。下手に地上に出たりしたら、ガラスが散乱して危ないし、頭上から物が落ちてくる危険も大きい。ニコが割れたガラスで肉球でも切ったら、大出血は必至であろう。地下シェルターが一番良いわけで、しばらく動かず様子を見ることに決めた。その後も、激しい余震が十回以上。ゴーゴーと地鳴りがする。事務室の警報ベルはけたたましく鳴り響いて、止まらない。ニコは最初の揺れでは腰を抜かしたが、その後は肝が座ったのが動じない。私たちは助かった…。

その夜は地下鉄の真上にある仙台市太白区役所で一夜を明かした。近隣の住民たちと、帰宅難民の会社員などで何万人も押しかけているらしく、みんな立ったままラジオの情報に耳を傾けていた。私たちは職員の人に「盲導犬が一緒です。どこかしっぽを踏まれない場所はありませんか？助けて下さい。」と必死に頼みこんだ。みんな殺気立っている。しばらくして私たちは、二階に案内された。そこはカーペットの敷いた部屋で、赤ちゃんや幼い子供たち専用の避難部屋だった。ニコはここでもおとなしく過ごした。余震の続く中、私は何回か屋外に出てニコのトイレをさせた。地割れがあるから気をつけてと言われた。いちばん困ったのは食べ物がないこと。もちろんニコのドッグフードもない。かろうじてペットボトル一人一本与えられたがニコの分はもらえなかった。私は貴重な水をニコと分け合って飲んだ。電気もなく薄暗かったが、私はいつも暗闇に生きている。だからあまり怖さを感じなかった。でも寒くて寝られなかった。

一夜明け、私たちは避難所を出ることを決意。仙台市内の友人宅を目指す。バスとタクシーを乗り継いで到着。友人宅は郊外の高台の団地だ。半日ほど友人宅で休み、友人のご主人の運転で塩釜へ向かう。途中、道路にはものすごい亀裂が走り段差があった。信号も消えていたため、大渋滞。やっとのことで利府街道から塩釜市内に入った。すると焦げ臭い煙のにおいがしてきた。海沿いのコンビナートが火災を起こし、黒煙が立ち込めているとのこと。ますます不安になった。ようやく我が家に着いた。瓦屋根は落下し、窓ガラスは落ちていた。庭の石灯籠は倒壊。我が家は半壊の状態だった。家具や電化製品は倒れて散乱。友人夫婦がとりあえず一部屋だけ、落ち着けるように片づけてくれた。家の中はメチャクチャだが、屋根が潰れたわけではない。つまり住めない状態ではない。ニコのドッグフードもたくさんあるし、ニコも心なしか安心した様子。私はこのまま自宅にいることを決意。ライフラインはダメだが何とか飢えはしのげる。避難所のゴチャゴチャした中にいるより、自宅のほうがまだましだ。私はニコと二人で力を合わせて生きて行こう！と決めた。

こうして地震発生から今日で5日が経った(2011年3月15日)。やっと電気が開通した。水は雪のちらつく中を小学校に貫いて行く。体育館は避難所になっていて給水車が来る。食料は近所の人がおにぎりやパンなどを自宅に差し入れてくれる。何かと気遣ってくれる知人もいて心強い。塩釜は「共助」の精神がある地域なのだ。盲導犬のニコを心配してくれる。私は頑張っていけると確信した。心の支えは色々な人の励ましだった。

第一に知人に安否確認できたのはラッキーだった。私とニコは生きています！と。さらにガソリンが不足する中、東北運輸局のお二人が水や食料品、日用品を届けてくれたのには感激した。本当にありがたかった。

海沿いに住むたくさんの人たちの尊い命が大津波で奪われた。私は幸いニコと助かった。生死を分けるのはほんの紙一重だ。生き延びた人と亡くなった人。不条理だし、無念だ。この前代未聞の巨大地震と大津波から何を学ぶか。私は自然の脅威は勿論のこと、人間のちっぽけさと同時に人間の強靭さも痛感した。私は生きている。生きている幸運に感謝し今後何が出来るか考えている。亡くなった人の分まで真摯に生きなければならない。そしてこの体験を後世に伝えなければならないと痛感している。亡くなった人たちの星だろうか、今夜もひとときわ輝いて見えるようだ。心から御冥福をお祈りします。丸山さんより以下の川柳も頂戴しております。

☆生かされた命この手であたためる

☆すっからかん残ったものは絆です

☆悲しみを分たら合うため手をつなぐ

☆奈落の底で見上げた空を忘れない

☆日めくりの一枚ごとに日は昇る

2011.3.15 に記す



↑ 将来の盲導犬くん

水仙が咲きました ↓



モットー「かきくけこ」

NPO 法人のびのび会 指定障害福祉サービス ワーク・ポケット 藤井俱子さん

東日本大震災で被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。あの未曾有の大震災から間もなく1年。時間が過ぎてもなかなか解決しない、むしろどうにもならない大きく深い難問が深刻になっているのではないのでしょうか。

政治の大きな力を以って適切な援助を期待したいと願っています。

私は山形に住んでいて重度の障害を持つ 36 歳の息子と共に通所施設を開設しております。連日 20 名の利用者さん(所員)と支援スタッフ 10 名がひしめき合って個々人の個性と能力に沿った各々の作業や遊びと生活訓練をし、利用者さんが明日の喜びや成長に繋がるような運営方針で開設しております。

施設内ではとても静かに作業に取り組んで素晴らしい時間を過ごしたり、穏やかな笑い声がある時もあれば、一変して叫び声(障害のなせる技)、飛び跳ね等などいつ何時何が飛び出すか予測がつかない状況になることもあるのです。

様々な障害を持つ方の集まりである当施設では、多少の騒音や迷惑を心のどこかで迷惑と思いつつも受け入れている障害者の様子を私たちは何度も確認しております。その彼等の中に他者への受容の心がしっかり容認されている素晴らしさに脱帽しきりです。心のバリアフリーを実践している障害者と共にソフト、ハードの両面のバリアフリーが確立されていく努力を惜しむことなく行動していきたいと思えます。

純粹無垢な重度障害者の無意識に出される様々な発信に心洗われほっとする安堵感にどんなことも切り開いて突き抜けていける不思議な力を障害者から頂くことが出来ます。

私のモットーは

- か…感動する **生きてることは素晴らしい！**
- き…興味を持つ **知ることの素晴らしさに感動！**
- く…工夫する **ない頭を鍛錬することで飛び出すひらめきに感動！**
- け…経験する **経験できた楽しさに感動！**
- こ…恋をする **仕事に恋をして、新しい出会いに恋をして感動！**

「NPO法人ゆにふりみやぎ」設立

NPO 法人 ゆにふりみやぎ 理事 伊藤清市さん

本団体は、昨年10月にNPO法人格を取得し、新たにバリアフリー観光事業を主とする活動をスタートしました。そのきっかけとなったのは、一昨年から参加している日本バリアフリー観光推進機構(以下、機構)への参加です。

機構は、北は北海道旭川から、南は沖縄那覇まで全国14のバリアフリーツアーセンターが会員または会友となり、「観光地の活性化」「障がい者・高齢者の福祉」「人にやさしい地域づくり」を組み合わせることで、バリアフリー観光を推進していく団体です。

元々、宮城県内のバリアフリー活動を行っていた私たちですが、昨今のバリアフリー化により、地元に住む私たちにとっては市街地はずいぶん行動がしやすくなりました。しかしながら、来街者が多く訪れる観光地やその交通手段においては、情報を始めとして不十分な所が数多く見られます。

もちろん、バリアフリーに力を入れている事業者も増えておりますが、観光客に十分にアピールできていなかったり、トラブルを恐れるあまり情報そのものを出しそびれていたりと、せっかく整備されたバリアフリー観光施設が活かしきれていない現状もあります。

また、観光は「移動、宿泊、飲食」の複合体です。それらを網羅することによって、点から線へ、そしてネットワークへとバリアフリー化の可能性が広がる事業でもあると考えています。

以上のことから、従来の街のバリアフリー化の発展系として、観光地のバリアフリー活動を推進していきますが、従来どおり、障害理解や施策提言も継続して参ります。

昨年の東日本大震災で、私たちの東北は壊滅的な被り、観光事業も大打撃を受けました。しかしながら、復興元年に当たる今年は、東北の力を結集し、一人でも多くの方に東北にお越しいただく取り組みが求められます。本団体も微力ながら、機構の会員、会友の皆様のご協力をいただきながら、「東北の観光復興をバリアフリーで！」をスローガンに活動していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



「秋田市バリアフリー基本構想」を策定

秋田市都市整備部都市計画課

秋田市では、エイジフレンドリーシティ※（高齢者にやさしい都市）の実現を、今年4月からスタートした県都『あきた』成長プラン（第12次秋田市総合計画）における成長戦略の一つに掲げ、「社会を支えてきた高齢者が、住み慣れた地域で元気に生き生きとした生活を送ることができる社会」、「高齢者が豊富な知識や経験を生かして参加・参画できる社会」、「都市生活の利便性やバリアフリーが実現された社会」の実現を目指しています。

このたび、エイジフレンドリーシティの実現に向けた取組との連携を視野に入れ、バリアフリー新法と今年3月に改正された「移動円滑化の促進に関する基本方針」に即した「秋田市バリアフリー基本構想」を策定しました。（基本構想の期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間とし、重点整備地区は旅客施設周辺の2地区、特別特定建築物（病院）周辺の1地区の計3地区を設定）

本基本構想の特徴は、広く利用者の意見を反映できるよう、高齢者を対象としたアンケートや障がい者団体を対象としたヒアリングを実施したほか、「PDCAサイクル」により、計画の管理と質の確保を図ることとしています。

※エイジフレンドリーシティ…エイジフレンドリーシティは、WHO（世界保健機関）のプロジェクトにおいて提唱されたもの。高齢者にやさしいまちをつくりあげることが、高齢者以外の世代や障がいのある人にとっても暮らしやすい環境になるという考え方。

【基本構想策定までの取組】

○第1回 秋田市バリアフリー協議会（H22.11.17）

（内容）旧秋田市交通バリアフリー基本構想の総括

【これまでの主な取組】



段差解消された歩道（秋田環状線）



エレベーターが設置されたご線橋（土崎駅）



平成23年6月
秋 田 市

- ・バリアフリー基本構想策定にあたっての基本的事項の確認
- ・新たな重点整備地区の選定

○第2回 秋田市バリアフリー協議会（H23. 2. 2）

（内容）

- ・バリアフリー基本構想（たたき台）の確認

○基本構想（素案）に対する意見募集（H23. 2. 18～H23. 3. 7の18日間実施）

○第3回 秋田市バリアフリー協議会（H23. 4.28）

（内容）

- ・バリアフリー基本構想（素案）に対する意見募集の結果について
- ・バリアフリー基本構想（原案）について

○秋田市バリアフリー基本構想の公表（H23. 6.10）

【 実施すべき特定事業に関する主な事項 】

○ 道路特定事業

（内容）

歩道拡幅、歩道の段差解消、点字ブロックの設置、消融雪設備の設置 等

○ 交通安全特定事業

（内容）

音響式信号機への改良、エスコートゾーンの設置

○ 都市公園特定事業

（内容）

園路、広場、トイレの整備

【 包括的に取り組む主な事項 】

○ 高齢者コインバスの導入

（内容）

70歳以上の高齢者を対象に市内の路線バスを100円で乗車可能とするもの

○ 間口の除雪

（内容）

秋田市都市整備部都市計画課

電話 018-866-2152

FAX 018-865-6957

E-mail ro-urim@city.akita.akita.jp

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/keikaku/11koutuu-BF/new-bfkihonkou sou/default.htm>

本市が実施する道路除雪の際に生じた玄関先の雪の塊などを除雪するもの(対象は高齢者だけの世帯、身体の不自由な方だけの世帯)

バリアフリーリーダー-連絡会議を開催しました

今年度のバリアフリーリーダー会議を開催しました。

概要は、以下の通りです。

1. 日 時 平成24年2月16日(木) 14:00~16:00

2. 場 所 仙台サンプラザ 「ローズ」(仙台市宮城野区榴ヶ岡)

3. 主な議事

○東北の観光復興に向けた運輸局の取り組みについて

・東北運輸局企画観光部観光地域振興課長

○バリアフリーリーダーからの講演

・菅原 進氏(社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 社会福祉推進員)

「大震災から1年岩手県の現状と復興について」

・伊藤 清市氏(ゆにふりみやぎ 代表)

「東北の復興はバリアフリー観光で」

(会議概要)

・昨年(平成23年)の3.11東日本大震災後、1年が経過しました。

そこで、「岩手県における現状や復興状況について」、続いて、復興の一つの取り組みとして、「バリアフリー観光」についてお話しいただきました。

その後、バリアフリーリーダーの皆さんが、最近感じられたことや、これからに向けての想いを、お話しいただきました。

その中で、何かあったときに、お互い連絡できるネットワークづくりの大切さを改めて確認できました。

復興については、これから本格的に動き出すこととなります。その一歩として、本日の会議が役立てれば、この上ない喜びです。



管内運輸支局の活動 (平成 23 年度)



↑(バリアフリー教室・秋田運輸支局)



↑(バリアフリー教室・青森運輸支局)



↑(利便性向上会議・山形運輸支局)



↑(バリアフリー教室・岩手運輸支局)



↑(利便性向上会議・福島運輸支局)



↑(バリアフリー教室・宮城運輸支局)

(創刊にあたって)

バリアフリーを主体とした施策の取り組みの紹介や情報提供を行うとともに、皆様とともにバリアフリーを推進することを目的にバリアフリーニュースを創刊しました。

バリアフリー施策、並びに公共交通機関に関するご意見・改善要望等を運輸局で開催する会議等で活用させていただきたいと思いますので、東北運輸局 交通環境部 消費者行政・情報課まで、メール又はFAXでお寄せ下さい。

このニュースは、バリアフリー関係の話題を中心に、東北6県及び市町村のバリアフリー関係担当者、交通事業者、バリアフリーリーダー並びに社会福祉協議会等にお送りしています。

ニュース送付先の追加、変更、停止等を希望される方は、当課へご連絡ください。

がんばろう!東北



東北運輸局交通環境部消費者行政・情報課
〒983-8537
仙台市宮城野区鉄砲部町1番地
TEL:022-791-7513
FAX:022-791-7539
E-mail:tohoku-syougyouka@tth.mlit.go.jp